

## 第13回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

○ 本日、第13回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し、「高効率火力発電の普及に向けた地方の役割や取組み」について議論を行いました。

○ 今回の研究会では、まず、環境・エネルギーシステム研究の第一人者である早稲田大学の横山隆一教授から「電力システム改革と新たな送配電ネットワーク」と題し、電力システム改革の基本方針やその課題、次世代電力ネットワークのあるべき方向性などを、国内外の事例も交えながら、詳細かつ丁寧に御教示いただきました。

高効率火力発電の普及に向けた地方の役割や取組みを議論するための土台となる貴重な情報を御提供いただけたと、横山教授には深く感謝しております。

○ 次に、中本成美委員代理（北九州市）から、昨年12月の第7回研究会において情報提供いただいた「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」のその後の進捗状況として、洋上風力発電・高効率火力発電の立地促進、地域エネルギー会社の設立に向けた検討状況などを報告いただきました。

○ 次に、能見和司委員代理（九州電力）から、電力系統の送配電ネットワークに関連する話題として、「九州における再生可能エネルギーの現状と課題」と題し、再生可能エネルギーの大量導入により顕在化した系統連系問題に関する詳細情報に加え、接続可能量の拡大方策等に係る検討状況などを情報提供いただきました。

○ 最後に、これらの講演・情報提供を基に、①地方のエネルギー政策として、高効率火力発電の普及促進をどのように位置づけるべきか、②効率的で、環境面にも優れた高効率火力発電の普及を促進するため、どのような環境整備が必要かなどについて、委員間で討議を行いました。

各委員からの積極的な意見・助言により、「高効率火力発電の普及に向けた地方の役割や取組み」が明確になりましたので、今後の報告・提言に反映させていきたいと考えております。

○ なお、次回の研究会は平成27年1月頃に開催し、これまでの研究成果等を踏まえた「総括議論」を行うこととしております。

研究会においては、年度末を目途に、安定的なエネルギー・電力需給を確保するために地方が担うべき役割や取組みに関する提言等を取りまとめ、県に対し報告を行いたいと考えております。